

2023年FIA-F4選手権シリーズ
HFDP参加選手レポート
第5大会（第9戦／第10戦） 参戦レポート

9月16日（土）～17日（日）、スポーツランドSUGO（宮城県）で2023年FIA-F4選手権シリーズ第5大会（第9戦、第10戦）が開催されました。HFDP（ホンダ・フォーミュラ・ドリーム・プロジェクト）からは#5 三井優介（2002年04月21日生まれ。21歳）、#6 野村勇斗（2005年11月12日生まれ。17歳）、#7 森山冬星（2003年1月10日生まれ。20歳）の3人が参戦しました。

野村初優勝、三井ランキングトップへ

■公式予選（20分間+20分間）：天候/晴れ 路面/ドライ

レースウィークの練習走行セッションはドライコンディションで推移したが、金曜夜に雨が降り、土曜朝は曇天ながら路面はウェットコンディションとなりました。16日（土）午前8時からの公式予選は、まず20分間のA組からスタートしました。



#5 三井はチームと相談のうえ、路面コンディションの好転を期待してユーズドレインタイヤを装着、#7 森山はウェット路面でグリップを発揮するニューレインタイヤを装着して出走しました。

開始早々の午前8時03分、路面に足を取られてスピンする車両が発生、セッションは赤旗で中断されました。午前8時08分残り16分でセッションは再開、各車タイヤのウォームアップにかかりました。午前8時13分、#5 三井が1分34秒374を記録してトップに立ち、#7 森山は1分35秒717で4番手につけました。

#5 三井はさらに1分33秒931、1分33秒939とラップタイムを刻んでいき、セカンドベストタイムでもトップにつけました。

セッションは終盤にかかり、#5 三井はさらにラップタイムを更新しようとセクター1でファステストタイムを記録して突進しましたがその途中でセッションは赤旗で中断され、そのまま打ち切りとなってしまいました。それでも#5 三井のベストタイム、セカンドベストタイムは揺るがず、第9戦、第10戦ともフロントローから決勝レースに臨むことが決まりました。一方、#7 森山もタイム更新に成功しており、第9戦、第10戦ともA組3番手につけました。



午前8時35分に10分間の公式予選B組が始まりました。路面コンディションは大きく好転、ほぼドライコンディションとなったので#6 野村はドライタイヤを装着してセッションに臨みました。ところがセッション開始直後、まだ出走車両がウォームアップを行っている中でコースオフする車両が生じセッションは赤旗で中断。

セッションは午前8時41分、残り14分で再開されました。十分タイヤをウォームアップした#6 野村は計測3周目に全セクターでファステストタイムを記録して1分27秒88を記録しトップに立ちました。このタイムは路面コンディションがどんどん好転していく中で他車に更新されてしまいますが、#6 野村は改めてタイムアタックを行い、1分26秒113を記録して一気にトップに立ちました。

しかしこの時点で#6 野村のセカンドベストタイムは4番手にとどまっており、#6 野村はセカンドベストも更新しようとタイムアタックを続けましたがセッションの残り時間は少なくなっていました。#6



野村は最後にタイムアタックをしようとはしますが前の車両に詰まってしまったため、アタックを次の周へ先送りしようとしてアクセルを緩め前の車両との距離を開けました。

ところがアタックに入る直前、セッション終了時刻に到達、チェッカーフラッグが振られてしまったので#6 野村はアタックをすることができず、セッションを終え、第9戦ではポールポジションを獲得できたものの第10戦ではセカンドベストタイムが伸びずB組4番手に終わってしまいました。

こうして第9戦のスターティンググリッドはポールポジションが#6 野村、2番手が#5 三井、6番手が#7 森山、第10戦のスターティンググリッドは#5 三井が2番手、#7 森山が6番手、#6 野村が7番手と決まりました。

第9戦公式予選結果

予選B組1位 #6 野村 勇斗 1分26秒113 (1番手スタート)

予選A組1位 #5 三井 優介 1分33秒931 (2番手スタート)

予選A組3位 #7 森山 冬星 1分34秒836 (6番手スタート)

第10戦公式予選結果 (タイムアタックのセカンドタイム順に決定)

予選A組1位 #5 三井 優介 1分33秒939 (2番手スタート)

予選A組3位 #7 森山 冬星 1分35秒717 (6番手スタート)

予選B組4位 #6 野村 勇斗 1分26秒762 (7番手スタート)

■第9戦決勝レース（17周）：天候/曇り



朝の公式予選からは大きく路面コンディションが変わり、午後1時30分からの第9戦決勝レースは完全ドライコンディションで始まりました。ポールポジションの#6 野村は予選で使用したユーズドタイヤを装着しましたが、#5 三井は予選でレインタイヤを使ったためニュータイヤが1セット残っており、ニュータイヤを装着してスターティンググリッドにつきました。

スタート合図の瞬間、ポールポジションの#6 野村は2番手イン側の#5 三井の鼻先を押さえ込むため進路をインへ取って牽制し、首位を守って1コーナーに飛び込みました。6番手スタートの#7 森山は、1つポジションを落として7番手でレースを始めました。

グリップに優れるニュータイヤを装着している#5 三井はトップを走る#6 野村の背後につけオーバーテイクのスキを探り始めました。#5 三井の後方3番手との間隔はみるみる開いていきました。

ニュータイヤが温まった2周目、#5 三井は#6 野村に攻めかかろうとしましたが、このとき3コーナーでコースオフ車両が発生したためセーフティーカー（SC）が介入、レースは仕切り直しとなりました。



レースは6周目にリスタートしましたが、すでに#5 三井のニュータイヤのグリップはピークを過ぎており、#6 野村とほぼ同条件になったため背後には迫るもののオーバーテイクをかけるには至らず、トップ争いはテールトゥノーズのまま膠着状態となりました。一方後方では#7 森山が3番手集団の中で激しく闘っていましたが、10周目の1コーナーで先行車両に攻め寄り、アウト側から5番手に進出しました。



つこととなりました。

#6 野村と#5 三井はコンマ数秒差での接近戦を終始展開し3番手以下を引き離していきました。5番手に進出した#7 森山は4番手の選手には引き離され、後方からの追上が意識しなければならない状況となりました。結局、#6 野村と#5 三井はコンマ数秒差のまま17週のレースを走りきり、#6 野村が逃げ切ってポールのトゥウィンで初優勝を遂げました。#5 三井は2位、#7 森山は5位でチェッカーフラッグを受けました。この結果、2位に入賞した#5 三井はシリーズポイントでランキング首位に立

【FIA-F4 選手権シリーズ第9戦・レース結果】

#6 野村 勇斗 決勝1位 (27分06秒594 ベストタイム 1分24秒581)
#5 三井 優介 決勝2位 (27分07秒213 ベストタイム 1分24秒604)
#7 森山 冬星 決勝5位 (27分14秒910 ベストタイム 1分24秒758)

■第10戦決勝レース（17周）：天候/曇り



前日に続き曇天の下、17日（日）午前8時30分に第10戦決勝レースが始まりました。コースイン直前、霧雨が降ったためWET宣言が出されましたが路面はドライコンディションのまま、全車ドライタイヤを装着してスターティンググリッドにつきました。

フォーメーションラップを終えた44台のマシンがグリッドに着き、午前8時49分にレッドシグナルが消灯しました。ポールポジションから#81 卜部和久選手が好スタートを切り、#5 三井がそれに続いて1コーナーへ飛び込みました。#7 森山は1つポジションを上げ5番手、#6 野村は7番手に続きました。ところがオープニングラップの3コーナーで#6 野村は後方の#36 小林利徠斗選手から接触を受け、2台は姿勢を崩してコースオフ、大きく順位を下げることとなってしまいました。

#5 三井は先頭の#81 卜部選手の背後につけて3番手以下を引き離しながら周回を重ねますがオーバーテイクのチャンスが見つけれないままレースが進みました。一方5番手の#7 森山は前を走る2台が3番手争いをするスキに接近、最終コーナーからホームストレートにかけてこの2台の間に割って入って並走に持ち込むと、1コーナーのブレーキングから3コーナーの間に2台を完全に押さえ込んで3番手へ進出しました。



トップ2の後方、3番手に浮上した#7 森山はペースアップし、じりじりと間隔を縮め始めました。一方、2番手の#5 三井は#81 卜部選手をオーバーテイクするため8周目の1コーナーでラインを変えたところグリップを失い2コーナーでオーバーラン、2番手のポジションは守ったものの#81 卜部選手には逆に間隔を広げられてしまいました。



オーバーランした#5 三井を見た#7 森山はオーバーテイクしようと迫りましたが#5 三井もこらえて突き放し、ペースアップして首位の#81 卜部選手に再び迫りテールトゥノーズへ持ち込みました。#81 卜部選手の前には周回遅れの車両が見え始め、#5 三井には大きなチャンスがやってきました。ところが15周目、コースオフ車両が発生してSCが介入、オーバーテイクが禁止されてしまいました。そしてSC先導のままレースは17周を終え、チェッカーフラッグが振り下ろされました。#5 三井は2位に入賞、#7 森山は3位に入賞して三井とともに表彰台に上がりました。

この結果、シーズポイントランキングでは連続2位入賞を果たした#5 三井が通算ポイントを160点としてランキングトップとなり、2番手には通算ポイントを139点に伸ばした#6 野村が進出しました。#7 森山も通算ポイント87点でランキング5番手となりました。チームランキングではHFDPが通算ポイントを伸ばして逆転、6点差をつけてトップに立ちました。

【FIA-F4選手権シリーズ第10戦・レース結果】

#5 三井 優介 決勝2位 (26分11秒295 ベストタイム 1分24秒990)
#7 森山 冬星 決勝3位 (26分11秒473 ベストタイム 1分24秒846)
#6 野村 勇斗 決勝24位 (26分36秒255 ベストタイム 1分24秒827)

■2023FIA-F4 選手権シリーズポイントドライバーランキング (2023 シーズン第10 戦終了時点)

1 番手 #5 三井 優介 160 点

3 番手 #6 野村 勇斗 139 点

5 番手 #7 森山 冬星 87 点

(1 位 25 点、2 位 18 点、3 位 15 点、4 位 12 点、5 位 10 点、6 位 8 点、7 位 6 点、8 位 4 点、9 位 2 点、10 位 1 点)

■2023FIA-F4 選手権シリーズポイントチームランキング (2023 シーズン第10 戦終了時点)

1 番手 HFDP 196 点

(各チーム最上位のみ計上)

●ドライバーズコメント : #5 HFDP RACING 三井 優介



土曜日の朝起きてカーテンを開けて外を見たら路面がズブ濡れだったので、ああこれはB組が速いなどがっかりしたんですが、そこは頭を切り替えて、A組でダブルポールを獲れば良いやと思い直しました。

で、レインタイヤで行きましたが、新品で行くか中古で行くか、チームと話し合っ、僕は新品が良いかなと思ったんですが、周りの皆さんは中古の方がいいと思うということだったので、それを信じて中古で行きました。そうしたら、最初路面が濡れているときは遅かったんですけど、路面が乾いていくにしたがってフィーリングが良くなってタイムが出せました。アタック途中で赤旗が出たこともはなく、その後にアタックをやり直して良いポジションずっとアタックできたので、ベストとセカンドベとしては十分な予選ができたのかなと思います。第9戦はニュータイヤで行きました。1周目は少でしたが、翌周くらいから急にグリップ上がり始めて、よし良いぞと思ったところでSCが入ってしまいました。再スタートしたときにはタイヤのピークを過ぎてしまっていたようです。ペースはこちらの方が良かったと思うんですが、思った以上に空力の影響があって、抜けませんでした。第10戦に向けては、第9戦の映像を見てト部選手のことを研究して弱点を見つけておいたんですが、彼は多分そこを改善して第10戦に臨んだようで、スタートしてみたらこちらの思うようには行きませんでした。僕も僕なりに、昨日の反省を活かして、いろんなアプローチの仕方を変えたりもしましたが入ることができず、もっと大幅に変えてみようとしたときにオーバーランしてしまいました。今回、速いだけでは勝てないということがよくわかりました。



ありましたが、特に影響シオンにつけてクリアでストが出せました。A組

しグリップが足りませんめて、前との間隔を詰め

●ドライバーズコメント：#6 HFDP RACING 野村 勇斗



予選はまだセクター1、2は完全にウェットの感じでSPあたりからドライで行けるという感じだったので最初は慎重に行きました。ドライでの調子は木曜日から良かったので、落ち着いてクラッシュとかしないように気をつけながら行って、ペース良く走れました。でも最後、ほんと残り数秒でチェッカー振られてしまいました。もし行けていたらセカンドベストも取れていたと思うので非常に悔しいですが、第9戦ポールからスタートで初めて優勝できて嬉しいです。予選の結果、三井選手はニュータイヤを持っていたのでちょっと厳しいかなと思ってたんですけど、序盤で新品タイヤがグリップするときにうまく抑えられました。後半のペースは、事前テストからロングランが良かったので、自信持って走れました。第10戦では7位スタートから表彰台を狙ってたんですけど、最初2コーナーのイン側にいて次に3コーナーでアウト側に行ったとき、イン側から当てられてしまったんです。ミラーにも見えなくて完全にブラインドだったので、どうしようもなく、自分としては突然飛ばされてしまった感じでした。でも予選できちんとセカンドベストをちゃんと出していたら、あそこは走っていないわけで、レースも違う展開になっていたはずなので仕方ありません。次戦は、そこをちゃんと改善して優勝を狙っていきたいです。



●ドライバーズコメント：#7 HFDP RACING 森山 冬星



予選は、もっと早めからタイム出しておくべきでした。自分では雨が嫌いではないので、ちゃんと走れたらタイムは絶対上がっていただろうし、もうちょっとしっかり走りたかったなという感覚です。赤旗の影響は大きかったですね。タイヤが温まって次の周にアタックと思ったときに赤旗が出てしまったんです。でも思うようにアタックできなかったにもかかわらず3番手につけられたんだから、ラッキーだったのかもしれない。第9戦は、スタートは良かったんですけど、後の中村（仁）選手はそれよりも良くて、アウトから抜かれてしまいました。でもその後のペースは悪くなくて、途中結構危ない選手もいたりしましたが、うまくかわせて順位を上げられました。ハードな戦いでしたが、クラッシュすることもなく相手もフェアでラインを残してくれたりもしたので良かったです。第10戦は、スタートに集中したら、うまく決まりました。自分の持ち味のアグレッシブさも出せました。もうここしかないと思って真ん中に行って2台抜けました。あのときは、2台抜きができると思ってなかったんですが、1台がインに行って真ん中が一瞬空いたのでそこに飛び込んで、ブレーキで勝とうと思って頑張りました。その後のペースがほんとに良かったので、守りに入らずもう飛び出してもいいからと攻めました。そうしたらどんどん追いついていきました。ただ周回遅れの選手がちょっと邪魔に入って、そこでSCが入ってしまい残念です。もう優勝するゾーンに入っていたので悔しいです。この悔しさをバネにオートポリスでは予選からしっかりポールポジションを獲って優勝できるよう頑張ります。

